



東小の子どもたちの成長を願って・・・

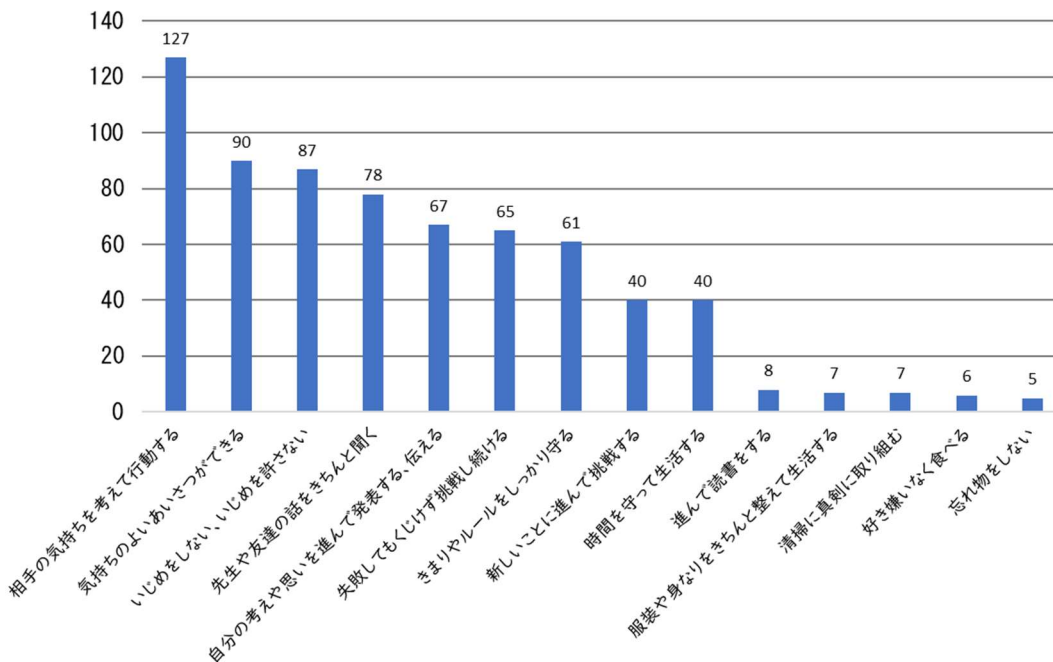
先日、保護者の皆様に、次のようなアンケートをお願いいたしました。

お子さん、あるいは本校児童の実態と将来を考えたときに、学校全体で取り組み、子どもたちに定着させてほしいと願う習慣や考え方はどんなことですか。

「自分も 相手も 大切にしている」子どもの具体的な姿と考えてくださってもかまいません。

御協力をありがとうございました。次年度の教育計画の立案に生かしてまいります。

保護者が願う子どもたちの姿



さて、保護者からの回答で一番多かったものは「相手の気持ちを考えて行動する」ことでした。場面場面によって、期待される行動は異なりますが、前提となるのは相手の立場になって考えるという「想像力」です。

2番目、3番目、4番目に多かった「気持ちのよいあいさつができる」「いじめをしない、いじめを許さない」

「先生や友達の話をきちんと聞く」という項目も、相手の気持ちや先のことを考える「想像力」さえもてれば、改善されていく、できるようになっていくとも考えられます。

あいさつで言えば、「今、私がいさつしたら、相手はどんな気持ちになるだろう。私がいさつしないで、目の前を通ったら相手はどんな気持ちができるだろう。」といった想像力です。しかし、私たちは、普段あいさつをする時にいちいちそんなことを想像してはいません。相手や場面によってはまれに考えることはありますが、毎回考えていたら疲れてしまいます。考えなくてもあいさつできるのはなぜでしょう。それは、あいさつが習慣になっているからです。あいさつができない人は、一度は考える必要があります。

「習慣に気を付けなさい、それはいつか性格になるから。」以前の学校だよりでも、マザーテレサのこの言葉を紹介しました。

本校では、来年度も重点目標「自分も 相手も 大切にする子」を継続する予定です。同じ目標の下で生活する中で、望ましい習慣が身につく、子どもたちにとっても、先生たちにとっても「学校が楽しい」場になるといいなと願っています。「気持ちのよいあいさつ」「いじめをしない、許さない」「人の話をきちんと聞く」、こういったことが習慣のように自然にできるようになっていくことを目指して教育活動を進めていきたいです。